

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	12-302	慶應義塾大学
題名（原題／訳）		
Post-treatment outcomes in a double-blind, randomized trial of sertraline for alcohol dependence. アルコール依存症のためのセルトラリンの二重盲検無作為試験の治療後の結果。		
執筆者		
Kranzler HR, Armeli S, Tennen H.		
掲載誌		
Alcohol ClinExp Res. 2012 Apr;36(4):739-44. doi:		
キーワード		
セルトリラリン, アルコール依存症, 二重盲検試験		
要 旨		
<p>目的： アルコール依存症（AD）の薬物療法研究は、通常短期間で治療後追跡調査を含んでいない。我々は、ADのためにセルトラリンのプラセボ対照試験で、治療効果の耐久性を調べた。</p> <p>方法： 既報のごとく、患者はセルトラリン（n = 63）またはプラセボ（n = 71）で12週間の治療を受けた。治療後3と6ヵ月に（Kranzler その他、2011、J クラン Psychopharmacol 31 : 22-30）評価した。我々は、飲酒日（DDs）と大量飲酒日（HDD）を、3つの被験者の間の要因（薬物群、ADの発病年齢 [遅発性のアルコール依存患者（LOAs）対早発性のアルコール依存患者（EOAs）]、tri-allelic 5-HTTLPR 遺伝子型）で、主要および交互作用効果を調査した。</p> <p>結果： L/L' LOAs のグループでは、治療の間有意な効果のあった薬物グループで、3ヵ月後の追跡調査期間の後も、セルトラリン群でプラセボ群に比べて飲酒日が短く（p = 0.027）効果が持続した。しかしながら、L/L' EOAs では薬物投与は治療期間中は有効であったが、治療終了後にはもはや有効ではなかった（p = 0.48）。S のキャリアでは、3ヵ月後には効果はなく、また、6ヵ月後の追跡調査ではどちらの遺伝子型群にも効果は見られなかった。</p> <p>結論： 治療の間、有効性が観察された LOAs での効果は、3ヵ月の治療後期間後にも有効性は持続した。これらの薬理遺伝学的所見（積極的な治療の間、見られる効果と）を確認するために更なる研究が必要である。また、LOAs だけでセルトラリンが積極的に使用する効果が認められることに関しても研究が必要とされる。</p>		